

美幌町の学校給食における食物アレルギー対応指針

(平成28年 3月 7日策定)

1 基本的な考え方

美幌町教育委員会は、平成26年10月に北海道教育委員会が策定した「学校における食物アレルギー対応の進め方」に沿ったアレルギー対応を実施します。

2 具体的な対応

- ①児童生徒の食物アレルギー情報を正確に把握するため、毎年、翌年に小学校入学予定の児童を含め、食物アレルギー調査を実施します。
- ②食物アレルギー調査の結果をデータベース化し、学校、給食センター、学校教育グループにおいて情報の共有を図ります。
- ③保護者は、学校での食物アレルギーに対する取組を希望する場合、「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」（以下「管理指導表」という。）を必ず学校に提出する。管理指導表は、症状等に変化がない場合であっても、配慮や管理が必要な間は、毎年提出する。
- ④美幌町教育委員会は、食物アレルギーを有する児童生徒の保護者に対して、管理指導表の作成に要する費用を助成し、保護者の負担軽減を図ります。
- ⑤管理指導表を基に、対象児童生徒への対応方法の検討、決定を行います。
 - ・個別面談（保護者、学級担任、養護教諭、栄養教諭、栄養職員）の実施。
 - ・個別の取組プランを作成する。
 - ・取組プランを全教職員へ周知、徹底する。

3 給食実施日における対応方法

- ①レベル1【詳細な献立表対応】
 - ・学校給食の原材料を詳細に記入した献立表を家庭に事前に配付し、それをもとに保護者や担任などの指示もしくは児童生徒自身の判断で原因食品を除去しながら食べる。
 - ・全ての対応の基本であり、レベル2、3でも詳細な献立表は提示する。
- ②レベル2【一部弁当対応又は完全弁当対応】
 - ・一部弁当対応は、除去食の対応が困難な献立に対して、家庭から弁当（代替食）を持参。
 - ・完全弁当対応は、全ての学校給食に対して弁当を持参。
- ③レベル3【除去食対応】
 - ・原因食品を除いた給食を提供する。
 - ・献立によっては、レベル2の対応をすることもあります。

※年々、食物アレルギー児童生徒が増加傾向にある中、学校におけるアレルギー対応人数の増加、重度のアナフィラキシーの症状を示すケース、コンタミネーションのリスクがあるケースなどにおいては、児童生徒への安全・安心な給食の提供を第一と考え、アレルギー対応における除去食対応を困難と判断する場合があります。

- ・「コンタミネーション」とは、食品の製造過程で機械や器具から偶発的に原因食物が微量に混入してしまうこと。

4 学校給食費の取扱い

①献立によって弁当を持参する場合

「1 食単価×給食を食べない日数」の金額を算出し返金する。

②主食（ごはん、パン、麺）を中止する場合

中止回数分の金額を返金する。

③牛乳を中止する場合

中止回数分の金額を返金する。

④献立によって除去食を提供する。又は、一部弁当を持参する場合

返金を行わない。

⑤献立によって副食の一部を自分で除去する場合

返金を行わない。

美幌町における食物アレルギーの状況

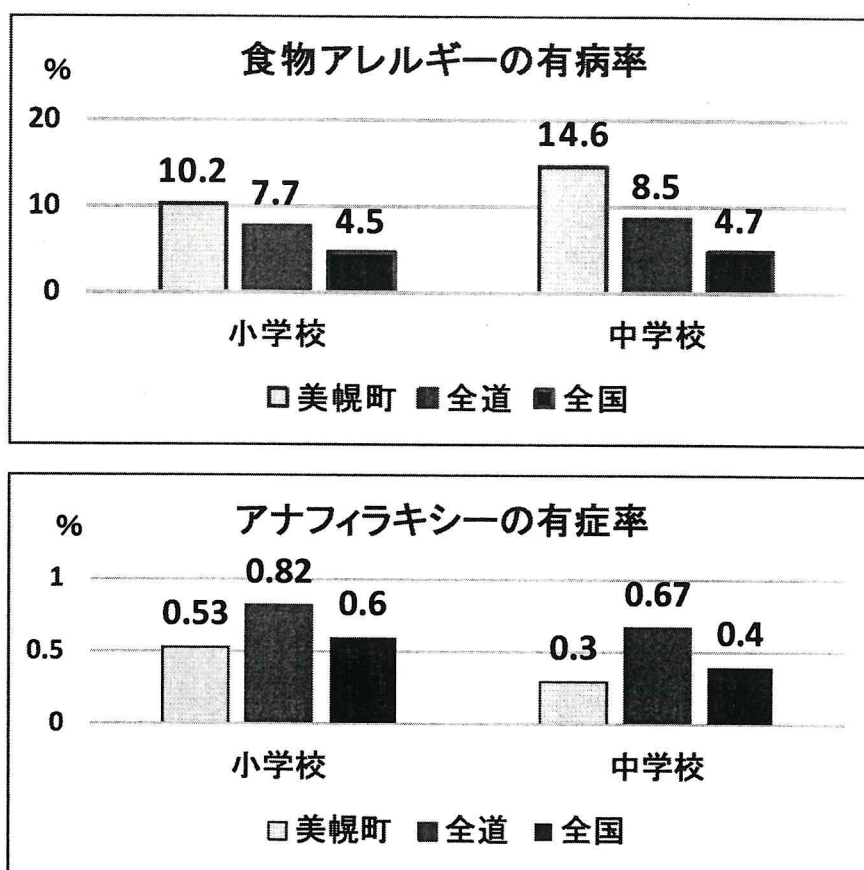
美幌町教育委員会では、児童生徒の食物アレルギー情報を正確に把握するため、平成 27 年 10～11 月にかけて、来春に小学校入学予定の児童を含め、小学 1 年から中学 2 年の児童生徒を対象に、食物アレルギー調査を実施しました。

その調査結果によると、食物アレルギーのある人数は、小学校 115 人（1,128 人中）、中学校 49 人（335 人中）、合計 164 人（1,463 人中）。前年度の調査では、合計で 173 人（1,507 人中）。

食物アレルギーの有病率は、小学校 10.2%（前年 10.3%）、中学校 14.6%（前年 15.6%）と全道、全国平均を大きく上回っています。

アナフィラキシー症状があった人数は、小学校 6 人（前年 7 人）、中学校 1 人（前年 1 人）、合計 7 人（前年 8 人）。

アナフィラキシーの有症率は、小学校 0.53%（前年 0.59%）、中学校 0.30%（前年 0.31%）と全道、全国平均を下回っています。



全道、全国の数値は、「平成 25 年度学校生活における健康管理に関する調査報告書」から。

食物アレルギーの原因となる食物は、多い順に、

1 位：果物類（45 人）、2 位：鶏卵（33 人）、3 位：そば（24 人）、4 位：魚卵（21 人）、5 位：魚類（15 人）、6 位：甲殻類（13 人）となっています。

前年度は、

1 位：果物類（70 人）、2 位：鶏卵（37 人）、3 位：そば（24 人）、3 位：魚卵（24 人）、5 位：甲殻類（15 人）、6 位：魚類（9 人）です。

全国的には、鶏卵、乳製品で約 50%を占めていると言われていますが、美幌町の場合、果物類が他の原因食物と比べて、特に多くなっているのが特徴となっています。